

# 富士山麓ファルマバレー 戦略推進地域

## 革新的ながん診療技術の開発と地域企業の医療健康産業 参入支援による医療健康産業クラスターの形成

### 参画機関 (太字はプログラム実施機関)

産…静岡県東部地域の商工会議所、商工会、  
中小企業団体中央会 ほか  
学…国立遺伝学研究所、沼津工業高等専門学校 ほか  
官…静岡県、静岡がんセンター、  
静岡県東部12市町 ほか  
金…静岡・スルガ・清水・静岡中央銀行、三島・  
沼津・富士・富士宮信用金庫 ほか

### 地域イノベーション戦略

静岡がんセンターを中心に、地域内外の機関と連携して世界レベルの研究開発を実施することで、世界のがん医療の発展に貢献することを最終目標に掲げています。この目標を達成するため産学官金の連携による創薬研究をはじめ、地域企業が医療現場のニーズに応える製品や医療機器メーカーの求める部品・部材等を開発し、国内外に販路を広げることで医療健康産業分野への参入を促進しています。これにより富士山麓地域に医療関連企業の技術力を集積し、医療健康産業クラスターの形成を図っています。



プロジェクトディレクター

### 植田 勝智

略歴：昭和51年、静岡県中小企業団体中央会入会。平成17年、ファルマバレーセンター副所長、平成24年、同センター所長。

ファルマバレーセンターは、ファルマバレープロジェクトの中核支援機関で本事業の総合調整機関です。地域企業の医療機器製造業への参入の促進と、優れた技術を開発し、医療現場のニーズと地域企業のものづくり技術をマッチングさせています。医療・介護機器開発の支援をはじめ、創薬等の高度な研究開発や製品化を加速させています。平成28年9月に新拠点に支援機能を移し、医療現場に直結した研究開発、医療・介護機器関連のものづくり等の支援強化を図ります。

### 事業の内容

#### 【事業概要】

#### 1. 大学等の知のネットワークの構築

創薬及び医療・介護ロボット、医療機器等の開発支援を行うため、プロジェクトディレクターを中心に、創薬、医療機器等の2チーム7人の地域連携コーディネータが、大学、研究機関、企業・団体等を訪問し、知のネットワークの拡大を図りながら、各分野で専門的・具体的支援を実施しています。また、競争的資金の獲得、研究成果の知的財産化、製品化等、出口戦略を見据えた支援を行っています。

#### 創薬チーム

がん患者の遺伝子解析研究をベースに、がん診断薬、がん治療薬の開発をはじめ、ゲノム解析とマルチオミクス臨床研究支援等を行いながら、製薬企業等への開発シーズ紹介とアライアンス形成等を行っています。

#### 医療・介護ロボット、機器チーム

医療現場から収集したベッドサイドニーズと地域企業の技術シーズをマッチングさせて、心臓カテーテル治療用補助具、放射線治療用補助具及び介護用移乗補助装置の開発支援等を実施しています。

#### 静岡県医療健康産業研究開発センター(愛称:ファルマバレーセンター)

平成28年9月には静岡がんセンターに隣接して、ファルマバレープロジェクト新拠点が開所しました。

新拠点には、国内屈指の医療機器メーカー及び自動車部品製造から医療機器産業に参入した地域企業の生産工場が稼働しています。

この他、研究開発型企業や特許事務所等10社が入居し、医療健康分野での更なる成長を加速させており、知のネットワーク構築の拡充を図る核となっています。



静岡県医療健康産業研究開発センター(手前)と静岡がんセンター(中央)

#### 【主な成果】

#### 1. 抗ノロウイルス対策製品の開発

静岡県立大学、静岡県環境衛生科学研究所及びファルマバレーセンターの共同研究で、静岡化合物ライブラリー12万化合物から紅茶成分であるテアフラビンが抗ノロウイルス作用を有していることを発見しました。

事業化のため、テアフラビンの製造技術を持つ地域企業の焼津水産化学工業と共同で特許出願を行い、同社が製品開発を実施しています。

ノロウイルス対策として現在推奨されている次亜塩素酸ナトリウムでは金属腐食や臭気等の問題で食品工場等では使用は困難です。焼津水産化学工業ではこれら問題を解決する抗ノロウイルス対策品の開発に取り組んでおり、調理時等に使用できるテアフラビン含有のマスクを試作しました。さらに、調理器具等消毒用の液剤やジェル等の開発にも取り組んでいます。



テアフラビン粉末



テアフラビン含有したマスク(製品名:レッドカテキン)

#### 2. 心臓カテーテル治療用腕固定クッションの開発

埼玉県新久喜総合病院、丸井商事、ファルマバレーセンターとの共同開発により、丸井商事の独自技術である「姿勢保持具ポジショニング技術」を活用し、操作性と安定性に優れた製品を開発しました。

試作品の市場評価も非常に高く、早期商品化が望まれています。食生活の欧米化等により心臓疾患は増加の一途で、深刻な問題となっています。近年、心臓手術も低侵襲化が進み、手首の血管からカテーテルを通す手法が増加しています。

この治療を安全かつ効率良く行うための補助具が腕固定クッションです。現在、事業化に向けて薬機法の諸手続を進めており、平成28年度内の市場導入を目指しています。



心臓カテーテル治療用腕固定クッション